

2011.4.9 東橋新報

011年(平成23年)4月9日(土曜日)

東

原因究明にはふれず

章南中ボート事故受け校外学習の指導文書

豊橋市教委

豊橋市教育委員会はこのほど「校外学習(行事)の安全管理体制の整備に向けて」と題した文書(A4判22頁)をまとめた。昨年6月に同市章南中学校が校外学習中にボートが転覆し、女生徒1人が亡くなったのを重くみてつくったという。保護者が強く求めていた事故原因の究明については、同書でも「静岡県警および国土交通省運輸安全委員会の調査結果を待たざるを得ない」として、ふれなかった。(高石昌良)

また、カッター訓練 報の発表後も、(学校 丈夫と判断した)など 実施・中止の判断に 側は)所員による実施 として、判断を青年の 「学校側も主体的に 関する項では、「注意 可能な判断を受け、大 家に「丸投げ」してい 気象情報の収集を行

い、(不安があれば) 協議すべき」と記し た。 全体として生徒の安 全管理を三ヶ日青年の 家に委ねすぎている点 も反省。カッター訓練 を前に乗船名簿をつくらなかつた点にふれ、

「全体の参加者名簿だけでなく、活動ごとの参加者名簿を作成すべきだった」とした。

貴重品 盗難届

稀彩洞

古い物買ひします
0532・56・0153
豊橋市瓜郷町

しかし、一方で「青年の家からは乗船名簿

の提出は求められていなかった」などと、責任を青年の家に求める記述もあり、全体として「身内をかばって、お茶を濁した」といわれかねない内容も散見される。

同文書は同市教委学校教育課のHPでみる
ことができる。

校外学習安全確保

豊橋市が指針発表

ボート事故受け 下見の検証なし

浜名湖で昨年6月、自然体験学習中の豊橋市の女子中学1年生が亡くなったボート転覆事故を受けて、同市教育委員会は7日、校外学習の安全確保の指針を発表した。昨年11月の市議会に提出した原案から改善は見られたが、学校の下見については詳細な記述がないままの内容だ。

指針は「校外学習(行事)の安全管理体制の整備に向けて―豊橋市立章南中学校カッターボート転覆事故を教訓として―」(A4判22頁)。同教委は市内74の小中学校に配布し、今年度の校外学習から活用するよう指示した。

昨年11月に市議会に示した原案に比べ、転覆事故の「事実確認」の項目は時系列に天候、風速を記した表が加わり、詳細になった。しかし、この事実確認を基にした「今後配慮すべき事項」に下見の重要性を加えているにもかかわらず、女子生徒の通っていた章南中

の下見の検証はなかった。小出志郎市教育会館長は取材に「県の施設で、プロである相手の言うことを無条件に受け入れた。章南中は突っ込んだ下見ができていなかった」と認める一方で、教訓となるはずの下見の際の施設とのやりとりについては、具体的に記載する予定はないとしている。

市教委はホームページに指針を掲載する方針で、「市民から広く意見をいただき、改善していきたい」としている。(山田雄介)

校外学習の安全指針

豊橋市教委 ボート転覆事故教訓に

豊橋市教育委員会は7日、小中学校が校外学習を行う際の指針となる冊子「校外学習(行事)の安全管理体制の整備に向けて」を作成した。「豊橋市立章南中学校カッターボート転覆事故を教訓として」の副題が付けられており、事故の検証結果から教訓を引き出す内容となっている。

伝えられなかったこと、学校が乗船者名簿提出の準備をしていなかったことなどの問題点が明らかになった。指針では、調査結果を詳細に記述したうえで、「今後配慮すべき事項」として「あらゆる危険予測をしたうえで施設やプログラムを決定する」「場合によっては当該施設での実施を取りやめる」などの教訓を掲載している。市教委では、市内の小中学校に冊子を配布。また8日午前9時から市教委学校教育課のホームページに内容を掲載する。

天候の情報収集を

浜名湖のボート死亡事故

野外教育指針を改訂

豊橋市

浜松市の浜名湖で昨年6月、野外教育活動中のボートが転覆し、豊橋市章南中学校一年の西野花菜さん(当時12歳)が亡くなった事故を受け、豊橋市は7日、市内小中学校が野外教育活動をする際の指針をまとめた。市のホームページで八日に公開する。

指針は昨年十一月二日に発表された指針の改訂版でA4判、二十二ページ。事故の反省から、事故発生時に備え、児童の安全を確認できるように名簿を管理しておく▽学校が天候の情報を独自に集める▽野外教育を行う際、現地の警察や病院をあらかじめ確認するなどの点について、花菜さんの父親の友章さん(五十二)は、取材に対し「内容は前回と変わらないうえ、市が真摯に事故に向き合っていることは思えない。市民の意見を参考にさらに改訂してほしい」と話した。

2011.4.8 中日 三河